

# 困難を抱える子育て世帯への支援について①（ヤングケアラー支援の現状と課題）

文 教 委 員 会 資 料  
令 和 6 年 1 1 月 6 日  
子 ども 未 来 部  
子 ども 家 庭 支 援 セ ン タ ー

## 現 状

- ・令和5年9月にヤングケアラーの実態調査として、区内在住の小学4年生～高校3年生相当（18歳）を対象に、学校や家庭での生活や家族のお世話の状況などを調査したところ、約5%～約8%の子どもが家族の世話をしていると回答。
- ・約3割は「つらい」と感じることがあると回答し「自分の話を聞いてほしい」「食事を作ってほしい」「勉強を教えてほしい」「将来や進路の話を聞いてほしい」などの支援を求めていることが分かった。

## 取り組み状況（令和6年度）

### 相談体制

#### ヤングケアラーコーディネーターの配置

○全国でも珍しい元ヤングケアラーのコーディネーターを配置。当事者の悩み相談や関係機関への助言を行う。

コーディネーター対応件数 17件

子ども家庭支援センターのケース数 64件

#### SNSを活用した相談窓口の開設

##### ○ヤングケアラーサポートLINE

ヤングケアラーやその保護者からの相談。元ヤングケアラーの相談スタッフとのチャットのほか、体験談やイベント情報を配信。

相談件数 37件

ともだち登録数 201人



##### ○タブレット版ヤングケアラー相談ツール

区立学校の小中学生に貸与したタブレットから子ども家庭支援センターへの相談。相談内容を学校と共有、ヤングケアラーコーディネーターが面談等を実施。

相談件数 8件（学校や子ども家庭支援センターへ対応依頼）

#### キャリア相談

○高校生や若者ケアラーの進学・就職等の相談対応強化のため、キャリアコンサルタント等の有資格者による体制を構築し、LINE相談やZoom等で面談を行う。

相談件数 2件

#### ピアサポートの実施

○ヤングケアラー同士の悩みの共有の場として「しながわケアラズ喫茶」を開設。

第1回 6/30

対面6人・オンライン2人

第2回 9/23

対面8人



### 直接的支援の実施

#### 配食支援

○週2日程度家族分の夕食または昼食を無料で提供し、ヤングケアラーの負担軽減、その後の支援へつなげる。

配食数 3家庭 延168食



#### 学習支援

○訪問型学習支援により、ヤングケアラーや若者ケアラーへ学習機会を提供。長期休暇等を利用し、課外学習の場も提供。

実施件数 2回

学習イベント 1回（8/17開催9人）

#### 通訳派遣

○通院や手続き等に同行する通訳を派遣し、日本語がルーツではない家庭で通訳を担っているヤングケアラーの負担を軽減。

令和6年10月から開始



#### 訪問支援

○支援員が家庭を訪問し、ヤングケアラーが担う食事作りや掃除などの家事、家族などの世話や見守り、送迎を支援。

訪問件数 16回（32H）



### 普及啓発

#### 研修会の開催

○ヤングケアラーの早期発見のポイントや知識を身につけ、グループワークでは具体的な支援策を検討。

- ◆区職員 ◆区内私立中学校
- ◆区内小中および義務教育学校職員
- ◆障害児者相談支援事業所 など

研修 9回 151人参加

学校授業 1回 6年生53人参加

#### リーフレットの配布

○ポスター、カード、区民向けリーフレットを関係機関に配布。

区内施設

約240か所に配布



## 今後の課題

- ・ヤングケアラーの問題は表面化しづらい側面があり、予防的な取り組みが必要である。
- ・自身の進学や就労に関する選択の時期にある一方、ケア負担や責任が重くなる若者など、比較的年齢の高いケアラーに対する支援の強化が必要である。

# 困難を抱える子育て世帯への支援について②（子ども食堂、GCF、フリースペースの現状と課題）

文 教 委 員 会 資 料  
 令 和 6 年 1 1 月 6 日  
 子 ども 未 来 部  
 子 育 て 応 援 課 ・ 子 ども 育 成 課

[経過] 平成28年度より、「子どもの未来応援プロジェクト」を子ども・若者計画における重点課題として位置づけ、子育て応援課においては「**子どもの食の支援事業**」の充実を図っている。

## ① 子ども食堂への支援

[目的] 地域や企業ボランティアから自発的に始まった子ども食堂を支援してことで、地域における子どもの居場所づくりや子育て世帯への食の支援の充実を図る。

[支援メニュー]

名称 [事業開始年度]	内容
子ども食堂ネットワーク設立 [平成29年度～]	<p>目 的：子ども食堂間の<b>ネットワーク機能を構築</b>し、情報共有を図る 子ども食堂支援全般や、支援企業対応を行う</p> <p>内 容：子ども食堂の開設・運営支援（相談業務） 子ども食堂ネットワーク会議、各種研修会・勉強会の開催 子ども食堂マップ作成、ボランティアマッチング 企業寄付調整、フードパントリー用倉庫管理</p>
子ども食堂フォーラム開催 [平成29年度～]	<p>目 的：子ども食堂の<b>周知啓発</b>を図る</p> <p>日 時：令和6年6月29日開催（第8回目） 場 所：中小企業センター 3階 レクホールほか 来場者：約200名 内 容：運営者・支援企業のトークライブ、パネル展示（子ども食堂の紹介） 試食会、フードドライブの実施など</p>
子ども食堂運営費等の補助 [令和元年度～]	<p>目 的：子ども食堂の<b>運営費等を補助</b>することで、安定的な運営に寄与する</p> <p>名 称：子ども食堂推進事業補助金 補助額：子ども食堂運営費 年480千円（上限額） フードパントリー活動費 年720千円（ " ） 開設準備経費 年500千円（ " ・初年度限り） 実 績：21か所／9,906千円</p>
フードパントリー活動支援 [令和4年度～]	<p>目 的：コロナ禍や物価高騰で増えた<b>フードパントリー活動の追加支援</b>を行う</p> <p>内 容：フードパントリー用食品等の購入費として、区内共通商品券を配付 実 績：20か所／4,320千円分</p> <p>※区内共通商品券を近隣商店で使用してもらうことで、地域内の子ども食堂活動への理解が深まるといった副次的な効果も期待できる</p>

### 区内子ども食堂数



しながわ子ども食堂ネットワーク  
 公認キャラクター「おちゃわんくん」

### 今後の課題

子どもの朝食支援について、子ども食堂での実施に向けて運営者や支援企業と協議していく必要がある。

## ② ガバメントクラウドファンディングを活用した子どもの食の支援

[目的] ・ひとり親家庭等への継続的な食の支援（食品配送）を通じて、パンフレット同封やアンケートを行い、就労支援や学習支援といった自立支援に繋げる。  
 ・財源には、ふるさと納税による「ガバメントクラウドファンディング（GCF）」を活用することで、地域の理解を深めるとともに企業参加を推進する。

項目	内容（令和5年度実績）
名称	しあわせ食卓事業（令和元年度開始）
内容	ひとり親家庭等への食品配送を通じた自立支援
対象	ひとり親医療証を持つひとり親世帯、区民税非課税の多子世帯
申込世帯数	約510世帯
GCF寄付額	20,595千円（目標額5,000千円、達成率412%）
配送回数	ガバメントクラウドファンディング分（年2回）、企業寄付品分（年4回）

### 今後の課題

区民や企業との理解・協力を得て定期的な食品配送を行い、食の支援を通じた自立支援を推進する。

[経過] 平成28年度より、区内の子育て・子ども・若者支援を行うNPO団体によるネットワークを結成し、生きづらさを抱える子ども・若者の「**居場所づくり・自立への支援**」として「子ども・若者応援事業」をスタート。

## ③ 子ども若者応援フリースペースにおける子ども・家族への支援

[目的] 不登校やひきこもり等、様々な生きづらさを抱える子ども・若者が安心して過ごせる居場所を整備し、すべての子ども・若者が前向きに生きていけるよう、支援の充実を図る。

項目	内容（令和5年度実績）
名称	子ども若者応援フリースペース（平成28年度開始）
内容	①子ども・若者が自由に安心して過ごせる居場所の設置 ②複雑な悩みを抱える本人や家族への相談対応 ③自立に向けた若者社会体験プログラムの実施 ④家族支援懇談会の実施
主な対象	生きづらさを抱える子ども・若者（年齢による制限はなし）とその家族
実施場所	ファミリー西品川 4室（元区民住宅をリフォーム）
実施日時	平日週5日 10：00～19：00
利用実績	①居場所（延べ利用）：4,920人、②相談：499件 ③若者社会体験プログラム：716人、④家族支援懇談会：80人
沿革	[平成28年度]：事業開始。週1回 10：00～16：00（平塚橋ゆうゆうプラザ） [平成29年度]：実施時間を延長 ⇒ 10：00～19：00 [平成30年4月～6月]：実施日数の拡大 ⇒ 週3回実施 [平成30年7月～]：新たに専用の拠点を開設し、移転 ⇒ 荏原中延 実施日数の拡大 ⇒ 週5回実施 [令和3年6月～]：利用者増によるリニューアル・移転 ⇒ 西品川

### 今後の課題

増え続ける利用者への対応として、環境整備や支援メニューの充実を進めていく必要がある。